◎マイクロウエーブセンサー(USB モジュール) ver: S0.73

<u>※キャリブレーションモードで使用されるときは、下記 2 ページに従って、キャリブレー</u> ション実施してください。

(太字は通常時の推奨設定)

《SW1》心拍 LPF の切り替え

・OFF:可変LPFモード、部屋の振動等がある場合に使用ください。

・ON: LPF 20Hz 固定モード、通常はこちらを使用ください。

《SW2》キャリブレーションモードの切り替え

・OFF:キャリブレーション無しモード(工場出荷時の閾値を適用)

ON:キャリブレーションモード(キャリブレーション動作による閾値を適用)

《SW3》心拍数測定範囲の切り替え

·OFF: 心拍数 67~250 bpm

★通常心拍数が70以上の方はこちらでご使用ください。

·ON : 心拍数 48~250 bpm

★標準はこちらを使用ください。

《SW4》心拍閾値(呼吸閾値)の切り替え

・OFF: 閾値小を適用 (感度高い)

・ON: 閾値大を適用 (感度低い)

(注: 閾値は小さい方が感度が高いが、ノイズも拾いやすいため、測定対象者不在時に心

拍数・呼吸数がゼロになり難い傾向が出ます)

★SW 端子について、

- ・筐体に入ったサンプルでは DIPSW で切り替えてください。
- ・モジュールサンプル(UART タイプ)では以下になります。
 - · HIGH (OPEN) でSWITCH OFF。
 - ・LOW (GND、SHORT) でSWITCH ONです。
- ◎【キャリブレーションモードについて (SW2=ON時) 】

タクトスイッチを押す(図で示した箇所を SHORT⇒OPEN)と、約 60 秒かけて閾値のキャリブレーション動作を実行し、モジュール内に記憶します。

※キャリブレーション中は、測定対象のない状態で実施(部屋を出て)ください。

閾値の計算 (ノイズレベル測定) は、タクトスイッチを押した約 20 秒後から 開始されます。

以降、電源を切っても、キャリブレーションの閾値は保持します。

※上記キャリブレーション動作の実行前は、工場出荷時設定の閾値(SW4の状態によらず閾値小になります)が適用されます。

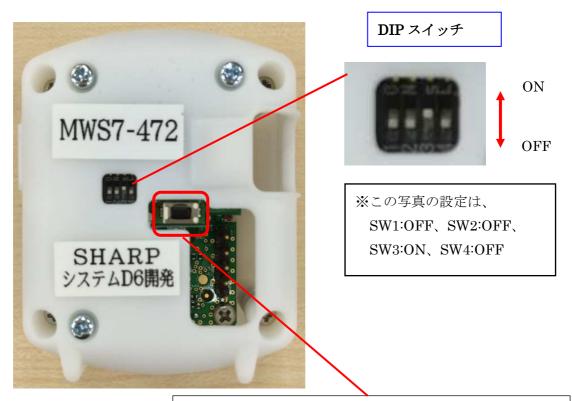
その状態でもセンサーをお使い頂けますが、お客様環境下での キャリブレーション動作実施を推奨します。

※SW2=OFFにすると、工場出荷時の閾値が適用されるようになります。

《ご注意事項》

※心拍・呼吸数値は、開始から最初40秒くらいまでの精度は高くありません。 (使用しているフィルタ及び関数演算の性質による)

- ※体動が大きい場合も心拍・呼吸数値は不正確になります。
- ※浴室でご使用される場合は、電波環境として反射波が多い為、キャリブレーション無しモードで、低感度 《SW2=OFF、SW4=ON》の設定を推奨致します。



タクトスイッチを押すとキャリブレーション開始: ★キャリブレーション中は、部屋を出て行ってください。

以上